

スマートメーター学ぶ

タクシニア アフロ社が講演

タクシー問題懇談会(会長＝高野公秀グリーンキャブ社長)は24日、東京・市ヶ谷の自動車会館で定例会を開催、システム開発・技術支援サービスのアフロ社(港区)から増井浩二社長とIoT(モノのインターネット)事業部推進室担当の生田修部長を招き、スマートフォンを連動させた「スマートタクシーメーター」や「電子封印」について学んだ。試作メーターによる実演も行われた。

高野会長は「事業環境が激しく変化していく中でキーになるのは、タクシーが成り立つ根幹であるメーターだ。新しい型が出てきており、勉強が必要」と述べた。

生田氏は新システムの特長として、一括して運賃・

料金の改定作業ができるなどメーターのネットワーク化を提示。今後に向け「自動日報やIP無線の代替、勤務シフトの管理などいろいろなおこなうことができる。個別に機能をオプション化した。最終の営業プランがでるのに今年いっぱいかかる」と話した。

増井氏は「こんなに多くの制約があると思わなかった」と、新規参入の感想を吐露。

「共通化を考えたとき、例えば、あるメーターではその会社のETC(自動料金收受システム)でなければ使えないといった制約がある。当社はそれらを取っ払い、コストを安く、どこでも付けられ、新しく足せるものを目指したい」と意気込みを見せた。